

2021年8月23日 全7頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/8/23号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄大郎

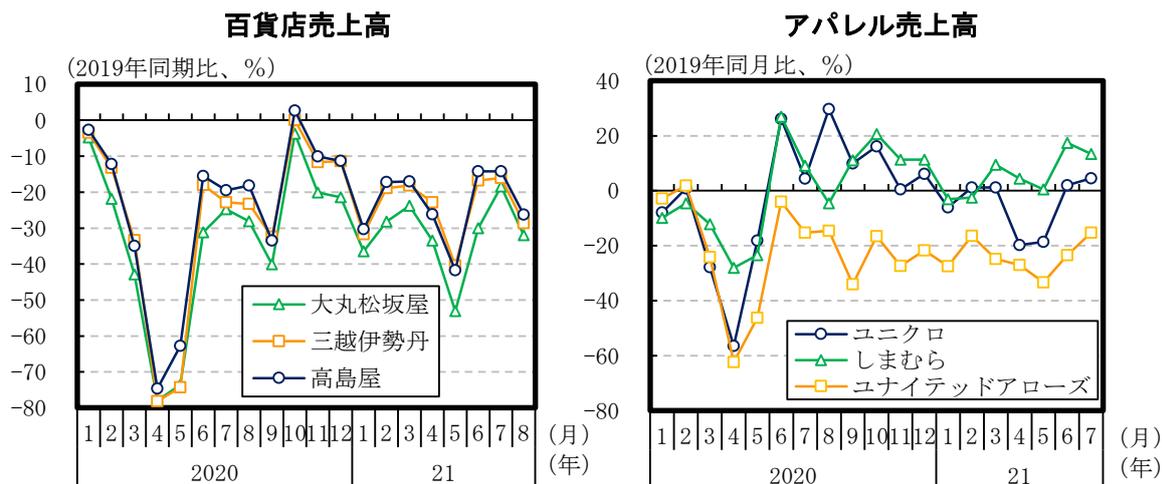
[要約]

- 8月前半の消費は7月から減少したとみられる。新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大に加え、西日本を中心とした豪雨の影響が大きかったとみられる。財消費では外出機会の減少を受け、百貨店や家電大型専門店、コンビニエンスストアの売上高が7月から大幅に減少した。他方、東京五輪の開催も在宅需要を後押しし、スーパーマーケットやドラッグストアなどは前月から売上が増加した。とりわけ飲食料品が全体を押し上げた。7月のサービス消費は6月から改善したとみられるものの、8月に入り感染拡大を受け、小売店・娯楽施設の人出は減少傾向にあり、消費額も落ち込んだとみている。
- 【小売関連】8月前半の大手百貨店の既存店売上高の伸び率は2019年同期比で3割減程度と7月からマイナス幅が拡大した。また、大手家電量販店の売上高は前月平均比▲7.8%、コンビニエンスストアは同▲4.9%となった。家電量販店では東京五輪前に売上が伸びていたテレビの需要が剥落し、全体を押し下げた。一方、スーパーマーケットは同+0.3%、ドラッグストアは同+2.1%と前月から増加した。とりわけ飲食料品が全体を押し上げた。
- 【サービス関連】7月の新幹線輸送量は、2019年同期比5~6割減程度、旅客機（国内線）輸送量は同6割減程度と、いずれも6月に比べマイナス幅が縮小した。7月は4連休もあって人の移動が活発になった。だが、8月に入り全国的な感染拡大を受けていずれもマイナス幅が7月から拡大したとみられる。一方、お盆期間の旅客数はいずれも同6~7割減程度であった。また、お盆期間の高速道路交通量（NEXCO3社と本州四国連絡橋）も前年比で4割減と前月からマイナス幅が拡大した。

＜小売関連＞

- ◆【百貨店】 大手3社の8月上旬の既存店売上高伸び率は、新型コロナウイルス感染症拡大前である2019年同期比で見ると、3割減程度と7月からマイナス幅が拡大。感染拡大による来客数の減少に加え、天候要因も下押し。
- ◆【アパレル】 7月のアパレル各社の既存店売上高伸び率（2019年同月比）はまちまちも、おおむね前月から改善。梅雨明けが例年より早く、盛夏商品が好調。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2021年8月は15日まで。

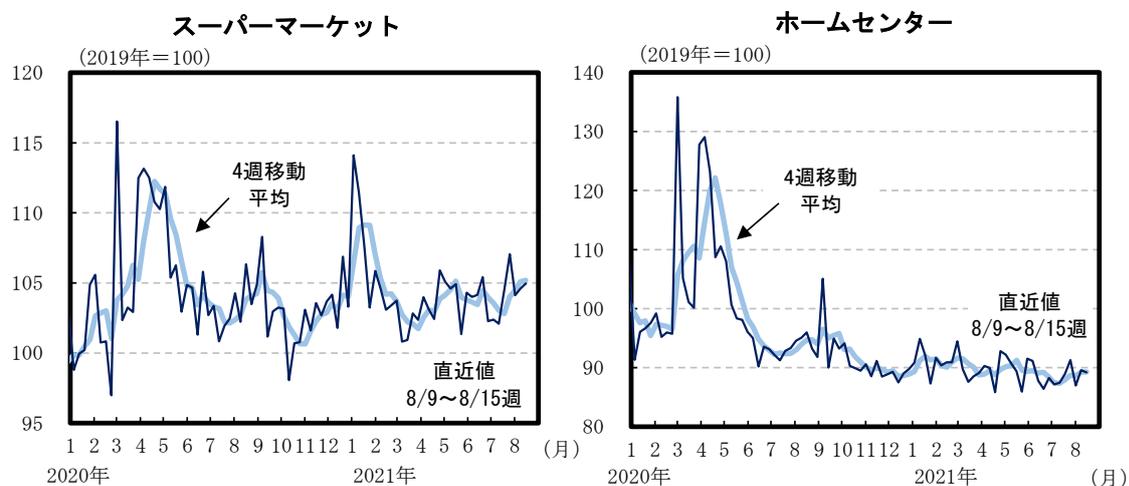
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユニテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】 8月前半の売上高は前月平均比+0.3%（大和総研による季節調整値）。東京五輪の自宅観戦によって食品などが押し上げ。
- ◆【ホームセンター】 8月前半の売上高は前月平均比+0.8%（大和総研による季節調整値）。食品やヘルスケア関連が前月から増加。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

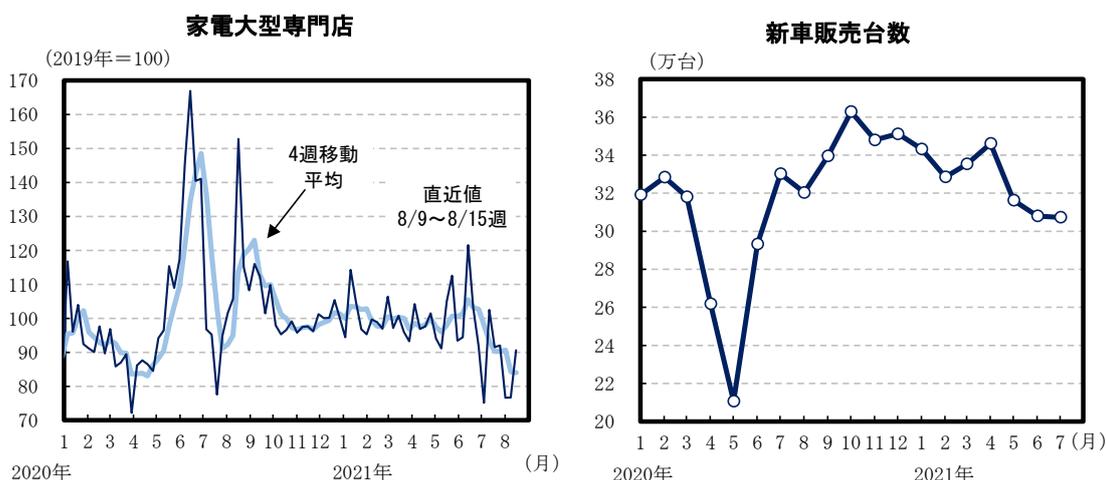


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 8 月前半の大手家電量販店の売上高は前月平均比▲7.8%（大和総研による季節調整値）。五輪前に販売が増加したテレビが反動減で全体を大きく押し下げ。天候不順でエアコンなども不調。
- ◆【自動車】 7 月の新車販売台数は6月から0.1万台減少し、前月比▲0.2%（大和総研による季節調整値）と低調。半導体不足の影響が続く。

図表 3：家電・自動車の売上高



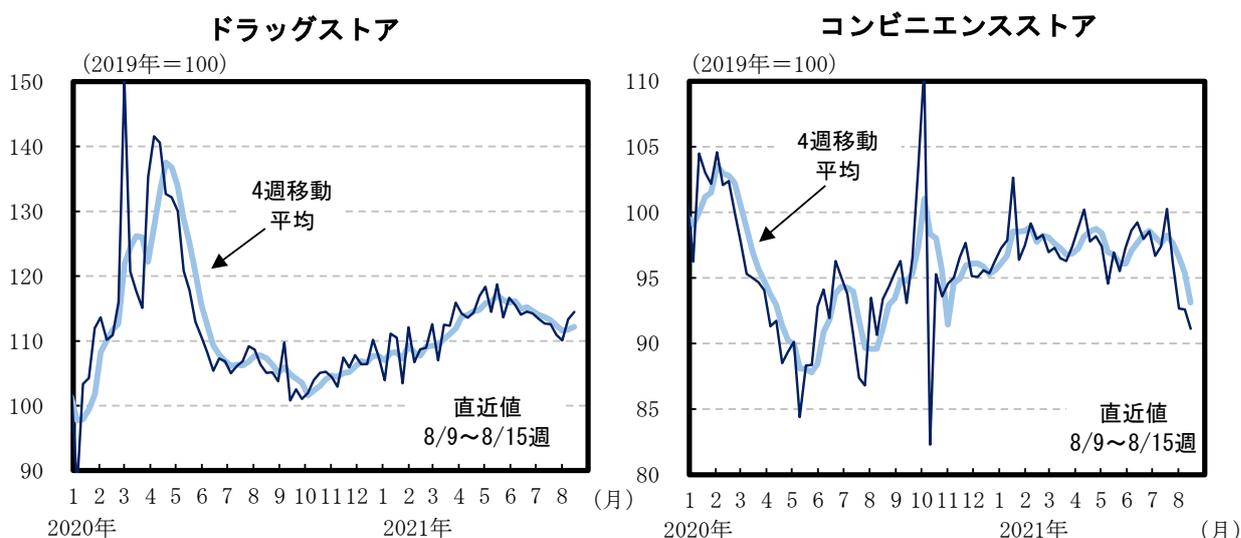
(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

- ◆【ドラッグストア】 8 月前半の売上高は前月平均比+2.1%（大和総研による季節調整値）。飲食料品が増加。感染拡大や天候不順による外出の減少を受け日焼け止めなどの化粧品は減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 8 月前半の売上高は前月平均比▲4.9%（大和総研による季節調整値）。感染拡大や天候不順で全ての品目が減少。

図表 4：ドラッグストア・コンビニエンスストアの売上高



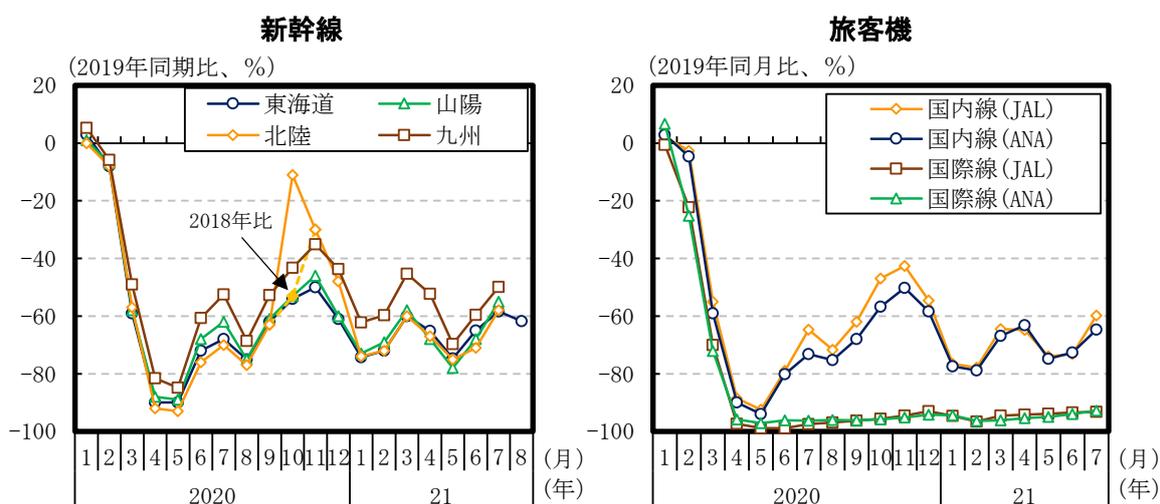
(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】7月の輸送量は、2019年同期比5~6割減程度と5月を底に緩やかに回復。東海道新幹線のお盆期間（8/6~8/17）の輸送量はコロナショック前と比べ約7割減。
- ◆【旅客機】7月の輸送量は、国内線は2019年同月比6割減程度と6月から改善。お盆期間の旅客数は同6割減程度。国際線は同9割減程度と底這いが続く。

図表5：新幹線・旅客機の利用状況



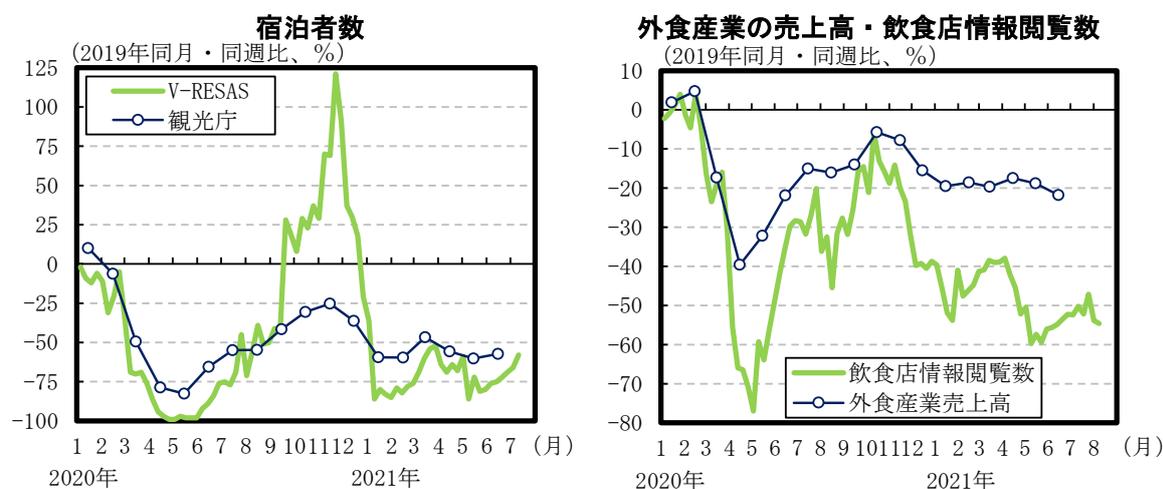
(注1) 新幹線の2021年8月の東海道は3日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】6月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比6割減程度と5月からおおむね横ばい。V-RESASによると、7月に入り幾分回復したとみられる。
- ◆【外食】6月の外食産業の売上高伸び率は2019年同月比2割減程度と前月から僅かに減少。7月の飲食店情報閲覧数は6月から均せばおおむね横ばいも、8月前半はマイナス幅が拡大。

図表6：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



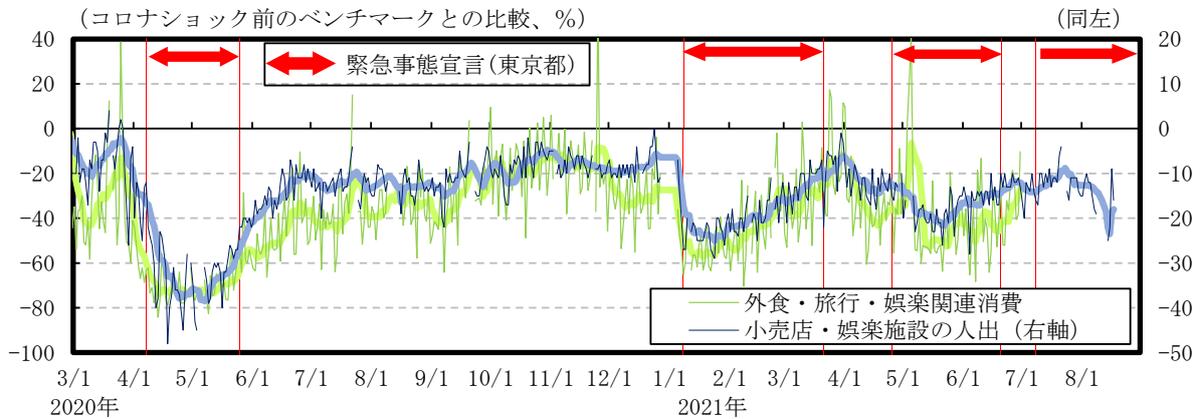
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

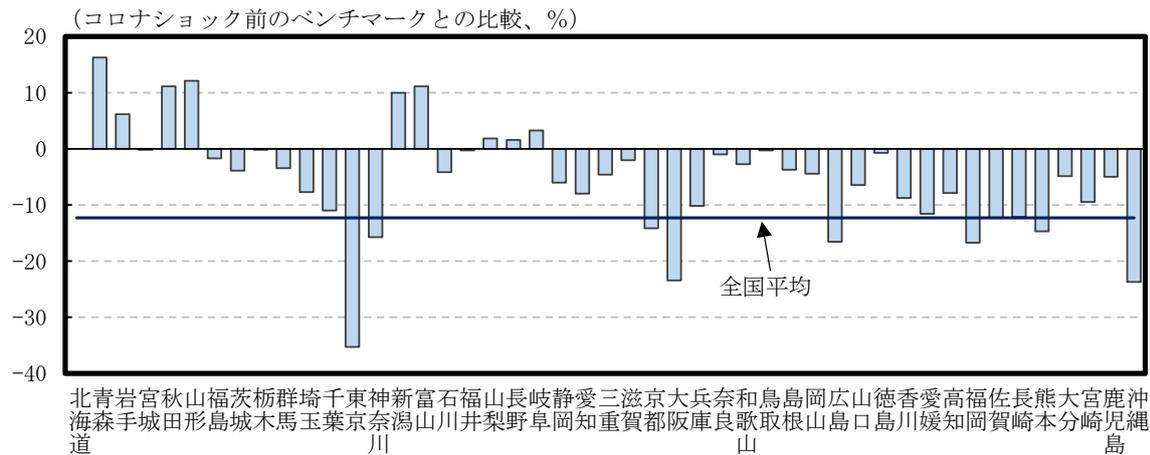
図表 7-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 8/17）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

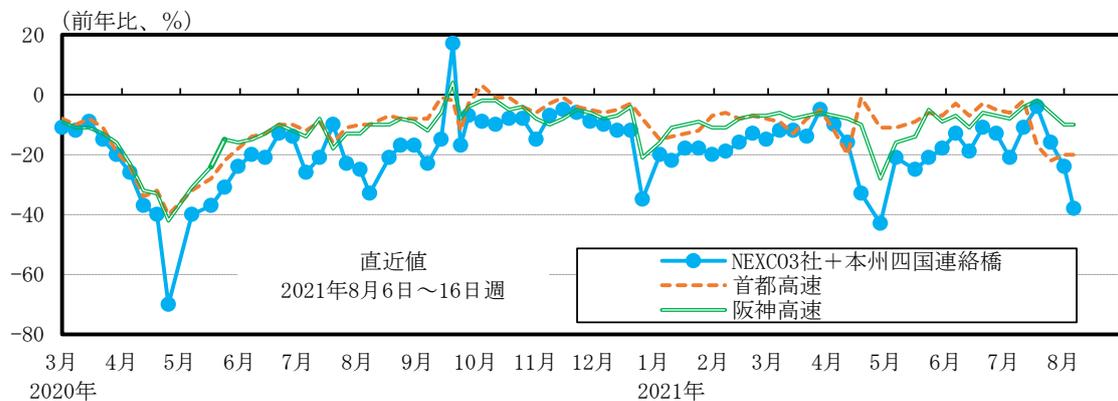
図表 7-2：小売店・娯楽施設の人出（8/11～8/17 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

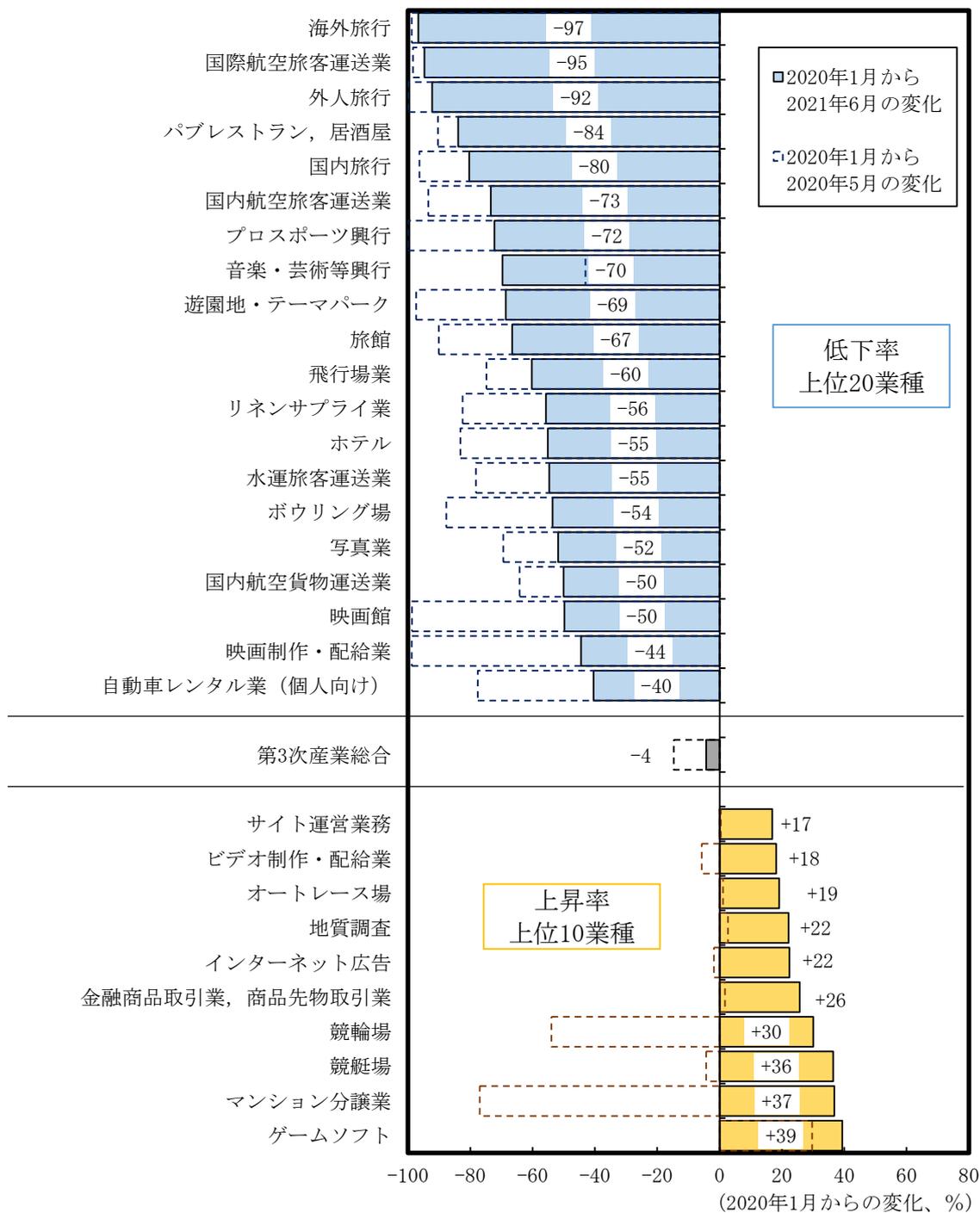
図表 8：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

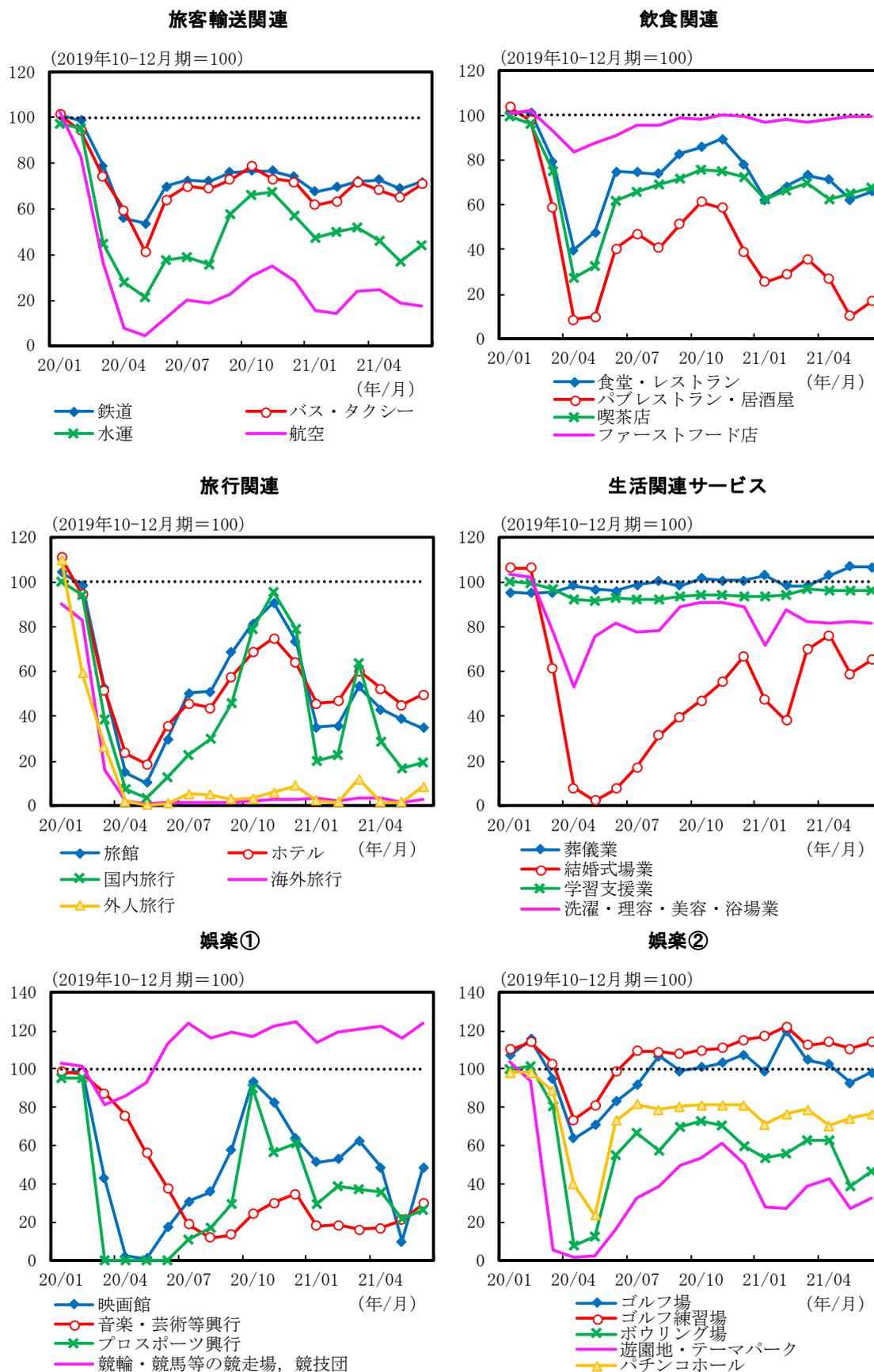
図表 9-1 : 第 3 次産業活動指数 (2021 年 6 月)



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2021年6月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 9-2 : 運輸業・生活関連娯楽サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成